

失われた人を捜して

(ルカ一九・一〜一〇)

NHKB Sで放映されている「ザ・プロファイラー」という番組がある。歴史好きの岡田准一が、時代を動かした人物たちの謎に挑む、というコンセプトで、なかなかおもしろい。日本では、もっぱら犯罪捜査のイメージの強いプロファイラーという語だが、実は昔から使われているプロフィールと意味は同じだ。英語と仏語の差異で、カタカナとして受け取るイメージが異なってくるのもおもしろい。閑話休題。

一、ザアカイのプロファイラー

ではザアカイとは、どんな人だったのか。聖書から彼をプロファイリングしてみよう。①古くから栄え、交通の要衝であったエリコに住んでいた。②支配者ローマから委託を受けて仕事をする取税人の頭で、金持ち。ただし、その仕事を利して不正の富を肥やしていたと思われる。それゆえ、人々は彼を嫌った。③人垣から覗き込めないほど、背が低かった。劣等感をバネに、他者を見返そうと、見せかけの強がり

に走るタイプと思える。

富と権威を手に入れ、人生の勝者となつたかのようなザアカイ。しかし、それらと引き換えに失つたものもまた多かつた。どんなに豪華な食卓も、一人で囲めば虚しい。心の奥底には、「誰か、オレを認めてくれ！」という渇きがあつたに違いない。エリコを訪れるイエスのもとに急いだ、その行動が、彼の渇きを雄弁に物語っているのではないか。あなたの心の奥底にも、隠れた渇きがないか。自分の人生に満足し、受け入れているか。

二、イエスは何をしてくれたのか

思い切つて出かけたものの、人垣に邪魔され、ザアカイの歩みは頓挫する。しかし、彼は諦めず、いちじく桑の木によじ登り始めた。葉陰から、眼下を通るイエスを見ようとした刹那、思いがけないことが起きる。イエスが足を止め、いちじく桑の木を振り仰いで、彼を呼んだのだ。この時、イエスはザアカイに何をしてくれたのか。①『イエスは彼を見てくれた。』売国奴扱いされ、嫌われてきたザアカイには、彼の人格そのものを認めてくれる人はいなかつた。しかし、イエスはまっすぐに彼を見つめてくれた。ザアカイは、捜し求めていた自分を認めてくれる方に出会えたのだ。あなたに命を与えた神は、どんな時にも

あなたを捜し、認め、決して見捨てない。

神の目は、いつもまっすぐ、あなたに向いている。②『イエスは彼の名を呼んでくれた。』不思議なことに、自己紹介する前から、イエスは彼の名を知つておられた。イエスはザアカイの全て、不正を働いて私腹を肥やす罪も、人から嫌われる心の醜さもご存じで、その上で彼を拒絶せずに、その名を呼んでくれたのだ。あなたがイエスを知るよりも先に、イエスはあなたを知つておられる。弱さも愚かさも含めて、全存在を受け入れておられる。③『イエスは彼を必要としてくれた。』急いで降りて来なさい。今日はあなたの家に泊まることにしてあるから。」この言葉が、「嫌われ者」のセルフイメージを持つ彼を変えた。自分だけにできるイエスへの使命を果たそうと、ザアカイは大急ぎで、木を滑り降りた。イエスにとつて、あなたは必要な存在だ。あなたにしかできない具体的な人生の使命と喜びは、イエスが必ず与えてくださる。

三、失われた人を捜して

イエスと出会つたザアカイは、変えられた。財産の半分を貧しい人々に施し、騙し取つたものを四倍にして返した彼の驚くべき変化は、「嫌われ者」ではなく「愛されている者」、というセルフイメージの変化に起因するに違いない。

「失われた人(一〇節)」とは、本来の居場所である神との交わりを失い、それゆえに的外れな生き方をしている人のことだ。「失われた人を捜して救うために来た」イエスこそが、もう一度その人生の方向を正しくしてくださる。十字架のみわぎをなされたイエスだけを仰ぎ、イエスだけを頼りとし、イエスだけに従つて生きていけばいい。彼が、あなたを新しく歩ませてくださるのだから。

* * *

四月。初めて教会を訪れた彼女は進行性の癌を患つていた。元来コンプレックスが強く、死の恐怖に苛まれていた彼女は、イエスと出会い、変えられた。家族や友人が驚くほどに明るく、活動的になり、残された時間を駆け抜けていった。一月。天に帰つた彼女の葬儀は、彼女の人生を鮮やかに変えた救い主イエスを高らかに証する時となつた。たとえ今どんな不安や問題があつたとしても、あなたを捜して救うために来たイエスをお迎えするなら、そこには愛と赦し、癒しと回復がある。さあ、いま心を開いて、あなたの人生にイエスをお迎えしよう。主イエスはあなたを待つておられる。

(内川高志牧師・明石キリスト教会)